基準４　学生の受入

（１）観点ごとの分析

観点４－１－①：　教育の目的に沿って，求める学生像や入学者選抜（例えば，準学士課程入学者選抜，編入学生選抜，留学生選抜，専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載された入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ，学校の教職員に周知されているか。また，将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点に係る状況）

本校の教育目標に沿って，準学士課程のアドミッション・ポリシーが定められている（資料４－１－①－１）。本校アドミッション・ポリシーは，平成16年度に定められ，平成17年度から入学者募集要項および学校案内に記載し，ホームページ（資料４－１－①－２）にも公開している。また，中学校訪問，学校説明会等において，入学者募集要項，学校案内を配布するとともに，アドミッション・ポリシーについての説明も行っており，学校見学会や体験学習会においても参加中学生や保護者に対して説明を行っている（資料４－１－①－３，４）。準学士課程では，中学生に理解しやすいようにメッセージ形式の表現も用いており，さらに各学科においても準学士課程のアドミッション・ポリシーをベースに各学科のアドミッション・ポリシーを定め，中学生に理解しやすい工夫を行っている。

高等学校からの編入学についても，アドミッション・ポリシーが定められており，編入学者募集要項に記載している（資料４－１－①－５）。

専攻科課程のアドミッション・ポリシーについては，教育目標に沿って定められており，専攻科学生募集要項に記載し，全国の高専に配布するとともに，ホームページにも公開している（資料４－１－①－６）。

また，教職員への周知に関しては，教員会議で説明するとともに，明記されている学生募集要項，学校案内を配布して周知を図っている。周知状況に関しては，教職員にアンケートを行った結果（資料４－１－①－７），「知っている」と答えた割合は，準学士課程に関しては80％以上と十分周知されているが，専攻科では64％，編入学では31％であり，十分とは言えない。

資料４－１－①－１　準学士課程アドミッション・ポリシー

“私たちが求めているのは・・

○人々のため、社会のために働きたい！

○仲間と協力して「夢」を実現する事業に挑戦したい！

○世界を舞台に新しい技術を開発してみたい！

○いろいろな「もの」づくりに携わりたい！

○コンピュータを活用して仕事をしたい！

・・あなたです！”

あなたは中学校ではどんな生徒ですか？
次のどれかにあてはまるのならば、
私たちはあなたの入学をまっています！

★理科が得意なあなたへ・・
その探求心を技術開発の世界でもっと深めてみませんか？

★数学が得意なあなたへ・・
その思考力を技術革新の世界でもっと高めてみませんか？

★英語が得意なあなたへ・・
その語学力を武器に国際的な技術者として活躍してみませんか？

★技術家庭が好きなあなたへ・・
その創造力をものづくりの世界でもっと極めてみませんか？

★生徒会や部活で活躍したあなたへ・・
仲間と協力する能力を本校や社会で発揮してみませんか？

（出典　学校案内 2006）

資料４－１－①－２　準学士課程アドミッション・ポリシー（各学科）

函館高専が入学を期待する人
（アドミッションポリシー）

本科(1~5年)

函館高専は教育目標にあるような技術者を世に送り出すため、
次のような人の入学を期待しています

- 人々のため、社会のために働きたい人
- 仲間と協力して「夢」を実現する事業に挑戦したい人
- 世界を舞台に新しい技術を開発してみたい人
- いろいろな「ものづくり」に携わりたい人
- コンピュータを活用して仕事をしたい人

中学校で

理科が得意な人は、その探究心を技術開発の世界でもっと深めて見ませんか
数学が得意な人は、その思考力を技術革新の世界でもっと活かしてみませんか
英語が得意な人は、そのコミュニケーション能力を国際社会で実践してみませんか
技術家庭が好きな人は、その創造力をものづくりの世界でもっと究めて見ませんか
生徒会や部活で活躍した人は、仲間と協力する能力を学校や社会で発揮してみませんか

各学科が求める人

機械工学科

機械工学科は「人のために役立つ」、「生活を豊かにする」、「環境にやさしい」"ものづくり"を目指す創造技術者を育てる学科です。
本学科では、次のような人の入学を期待しています。

- 自動車、飛行機、ロボットなどの機械を作ることに興味がある人
- コンピュータを使った機械の制御や製品のデザインに関心がある人
- 新しい材料や新しいエネルギーの開発に挑戦したい人

電気電子工学科

電気電子工学科は「国際社会に通用する新しい電気機器や電子素子を創造できる電気電子技術者」を育てる学科です。
本学科では次のような人の入学を期待しています。

- 電気で動かす機器や素子に興味があり、新しい便利な機器や素子を作り、快適な社会作りに携わりたい人
- コンピュータやそれを使った情報機器に興味があり、それらの新しい機器の開発に興味がある人
- ものづくりを仕事としたい人、国際的に活躍したい人

情報工学科

情報工学科は「コンピュータを作る技術やコンピュータを利用して情報を効率よく整理する技術」について学び、「情報技術を用いて社会で活躍できる人、常に創造する心と探究心を忘れない技術者」を育てる学科です。
本学科では次のような人の入学を期待しています。

- 興味を持ったことに夢中になれる人、いろいろ新しいことを考えるのが好きな人
- 興味を持ったことに夢中になれる人、いろいろ新しいことを考えるのが好きな人
- コンピュータ本体やコンピュータシステムの高性能化や高度な利用法に興味がある人

物質工学科

物質工学科は「化学や生物工学、環境工学の基礎知識と先端的技術を融合して人類に役立つ物質を創造する技術者」を育てる学科です。
本学科では次のような人の入学を期待しています。

- 新しい材料物質の開発や生物工学の利用について興味を持っている人
- エネルギーやさまざまな資源の開発、有効利用に興味ある人
- 科学技術が自然に及ぼす影響を理解でき、地球環境問題の解決に強い関心のある人

環境都市工学科

環境都市工学科は「地球環境を守り、人々が快適に過ごすことができる都市（社会基盤）をつくる建設技術者」を育てる学科です。
本学科では次のような人の入学を期待しています。

- 市民の生命と安全を守り、自然環境と調和した都市づくりに意欲を持っている人
- 新幹線、空港、高速道路といったプロジェクトにおいて、構造物の設計や建設に携わりたい人
- 都市計画や環境保全計画について学びたい人

（出典　本校ウェブサイト　http://www.hakodate-ct.ac.jp/admpolicy/index.htm）

資料４－１－①－３　アドミッション・ポリシーPR状況

平成１８年度学校案内，学生募集要項 配布数　　平成１９年３月２２日現在

配布物	配布数	配布先
学校案内2006	3,998	中学校（道内，青森），学校説明会，体験学習会，学校見学会参加者，学習塾，中学校PTA，函館高専教職員
平成１９年度入学者募集要項	1,539	中学校（道内，青森），入試説明会参加者，函館高専教職員
平成１９年度専攻科学生募集要項	160	専攻科説明会参加者，社会人入学希望者，函館高専教職員
平成１９年度編入学者募集要項	73	高等学校，道内高専

平成１８年度中学校訪問

実施時期	訪問地区	学校数	
第１期（６月）	函館市内・市内近郊	37 校	62 校
	渡島地区（一部檜山地区）	17 校	
	檜山地区	8 校	
第２期（７月）	小樽市内	8 校	66 校
	南後志	8 校	
	北後志	9 校	
	札幌市内	30 校	
	青森市内	11 校	
第３期（９月）	函館市内・市内近郊	37 校	62 校
	渡島地区（一部檜山地区）	17 校	
	檜山地区	8 校	
		計	190 校

平成１８年度行事参加実績

行事名	実施日	参加者内訳				
		学校数	生徒	父母	先生他	合計
学校説明会	７月１日（函館）	42 校	146 名	174 名	21 名	341 名
	８月１９日（青森）	3 校	3 名	3 名	0 名	6 名
	９月９日（札幌）	内訳不明				33 名
一日体験学習会	８月１～３日	延 156 校	281 名			281 名
学校見学会	１０月２８日	46 校	216 名	84 名	2 名	302 名

（出典　学生課資料および広報企画委員会資料）

資料４－１－①－４　一日体験学習会プレゼンテーション資料

（出典　平成 18 年度一日体験学習会機械工学科資料）

資料４－１－①－５　編入学アドミッション・ポリシー

函館工業高等専門学校はこのような人を求めています

～ 函館工業高等専門学校のアドミッションポリシー（入学生受入方針）～

＊広い視野と深い専門性を身に付けた実践的な技術者として、社会の発展に貢献することを志す人

＊自らの向上をめざして、自主的・継続的に学習・研究することを志す人

＊技術者教育を受けるために必要な科学技術、数学および英語についての基礎能力を持っている人

（出典　平成 19 年度編入学者募集要項）

資料４－１－①－６　専攻科課程アドミッション・ポリシー

専攻科のアドミッションポリシー

函館高専専攻科は高専本学で学んだ専門知識と技術をさらに高め、社会の発展に貢献する技術者を育成することを目的としており、次のような人の入学を期待しています

- 広い視野と深い専門性を実につけた実践的な技術者として、社会の発展に貢献することを志す人
- 自らの向上をめざして、自主的・継続的に学習・研究することを志す人
- 技術者教育を受けるために必要な科学技術、数学および英語についての基礎能力を持っている人

専攻科には2つの専攻があります。各専攻は次のような人の入学を期待しています。

生産システム工学専攻

生産システム工学専攻は、本科の機械工学科、電気電子工学科及び情報工学科で習得した基礎学力を基盤に、それぞれの専門性を系統的に深めるとともに、複眼的な思考のできる技術者を育成するために、次のような人の入学を期待しています。

- 機械工学、電気電子工学、情報工学の融合した分野に、知的好奇心と挑戦する心を持って取り組んでみたい人
- 機械、電気電子、情報技術を組み合わせて、ロボットなどを作りたい人
- 機械工学、電気電子工学、情報工学のいずれかの専門についての基礎能力を持っている人

環境システム工学専攻

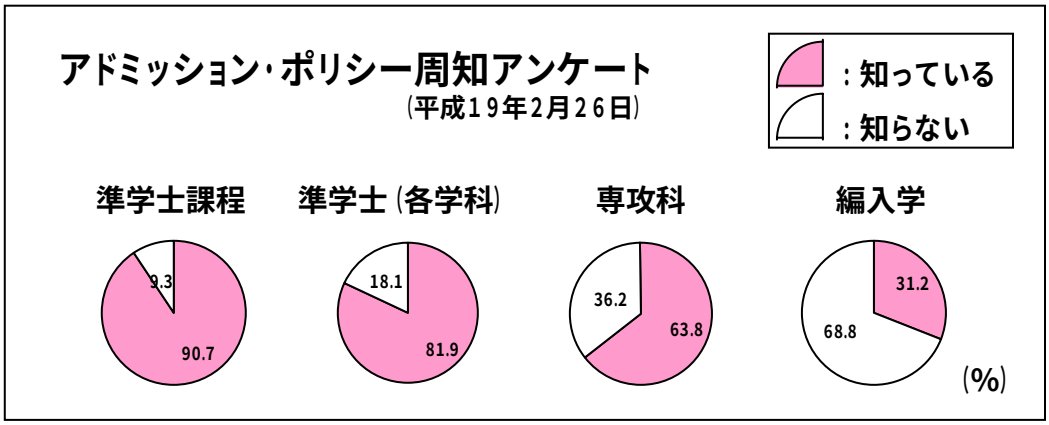
環境システム工学専攻は、本科の物質工学科、環境都市工学科で身に付けた基礎学力を基盤に、それぞれの専門性を系統的にさらに深めるとともに、複眼的な思考のできる技術者を育てるために次のような人の入学を期待しています。

- 物質工学・環境都市工学分野の自分の能力を、もっとパワーアップしたいと願っている人
- 自分の専門分野だけに止まらず、さらに広く隣の分野との融合にチャレンジしたい人
- グローバルな視点で人の幸せのために、自分の技術を生かしたいと真剣に考えている人

| このページのトップへ戻る | 本校トップへ戻る |

（出典　本校ウェブサイト http:// http://www.hakodate-ct.ac.jp/~w-senkou/admpoli_s.htm）

資料４－１－①－７　アドミッション・ポリシー周知アンケート結果



（出典　機関別認証評価対応部会資料）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程，編入学，専攻科課程の各段階においてアドミッション・ポリシーが全て明文化されており，各募集要項，学校案内の冊子とホームページにより公開し，中学校訪問，学校説明会等において冊子を配布するとともに，各説明会ではプレゼンテーションも行い周知を図っている。また，教職員への周知に関しては，教員会議で説明するとともに，明記されている学生募集要項，学校案内を配布して周知を図っているが，周知度調査によると専攻科課程および編入学のアドミッションポリシーの周知度については十分とは言えない。

観点４－２－①：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

準学士課程の入学者選抜は，入学者募集要項に従って推薦による選抜と学力検査による選抜を行っている。

推薦による選抜では，募集要項に従い個人調査書の学習成績と面接等（推薦書，自己アピール書を含む）の評価を５：１で総合的に評価し，定員の40％程度を合格させている（資料４－２－①－１）。面接，自己アピール書，推薦書の評価では，アドミッション・ポリシーに沿って中学校での学習や特別活動等を評価している（資料４－２－①－２，３）。

学力検査による選抜では，募集要項に従い５教科の学力検査と個人調査書により選抜を行っている（資料４－２－①－４）。学力検査問題は，高専機構全体で共通のものを使用しているが，本校ではアドミッション・ポリシーに沿って数学，理科および英語の配点を２倍にする傾斜配点を行っている。また，個人調査書では中学校における学習や特別活動等の状況を評価し，学力検査の成績と個人調査書の成績を40：９の比率で評価して合否を判定している。

編入学者の選抜は，編入学者募集要項に従って学力試験，調査書，面接の結果を総合的に評価して行っている（資料４－２－①－５）。学力試験ではアドミッション・ポリシーに沿って，数学，英語の一般科目および専門科目を実施している（資料４－２－①－６）。

専攻科課程の入学者選抜は，アドミッション・ポリシーに基づき，専攻科学生募集要項に従って推薦選抜，学力選抜および社会人特別選抜を行っている。

推薦選抜では，推薦書および調査書の記載内容等を考慮し，面接結果と合わせて合否判定を行っている（資料４－２－①－７，８）。

学力選抜では，英語，数学および専門科目の学力検査科目を設定し，学力点と調査書を考慮した面接評点により，総合的に行っている（資料４－２－①－９）。

社会人特別選抜では，推薦選抜同様，企業からの推薦書および調査書の記載内容を十分に考慮し，面接試験により合否を判定している（資料４－２－①－１０）。

資料４－２－①－１　推薦による選抜方法

平成19年度　函館工業高等専門学校入学者募集要項

Ⅰ　募集する学科及び人員

学　　科	入学定員	備　　考
機械工学科	40名	推薦による入学者は、各学科とも入学定員の40%程度とします。
電気電子工学科	40名	
情報工学科	40名	
物質工学科	40名	
環境都市工学科	40名	

Ⅱ　入学者の選抜方法

入学者の選抜は、「**推薦による選抜**」と「**学力検査による選抜**」との二つの方法で行います。

4　選抜の方法

入学者の選抜は、推薦書、自己アピール書、個人調査書及び面接の結果を総合的に判定して行います。

個人調査書の学習成績と面接等（自己アピール書を含む。）の評価の比率は５：１です。

（出典　平成 19 年度入学者募集要項）

資料４－２－①－２　推薦書

推　　薦　　書

※受検番号	
志望学科名	工学科

平成　　年　　月　　日

函館工業高等専門学校長　　殿

学 校 名
校 長 名

公印

下記の者は、学業・人物とも優秀で貴校への入学が適当と認められるので推薦します。

（ふりがな） 生 徒 氏 名		性別	昭和 平成　　年　　月　　日生

推　　薦　　理　　由	
1．志望の動機及び適性	
2．学　　業	
3．特別活動	
4．性格及び生活態度	
5．そ の 他	
記載責任者名	㊞

（出典　平成 19 年度入学者募集要項）

資料４－２－①－３　自己アピール書

自己アピール書

（※印欄には記入しないでください。）

※受検番号	
志望学科名	工学科

平成　　年　　月　　日

函館工業高等専門学校長　　殿

学　校　名
志願者署名

私が貴校を志願するに当たり、アピールしたいことは、次のとおりです。

１．入学を志望する理由や入学後の抱負について

２．中学校の各教科（選択教科を含む）や総合的な学習の時間における学習について

３．中学校在学中における学校内外の諸活動について

（出典　平成 19 年度入学者募集要項）

資料４－２－①－４　学力検査による選抜方法

４　選抜の方法

入学者の選抜は、学力検査及び個人調査書を総合的に判定して行います。

学力検査の成績は、数学、理科及び英語をそれぞれ２倍した得点と国語と社会の得点を合計したものとします（800 点満点）。

学力検査の成績と個人調査書の学習成績の比率は40：９です。

（出典　平成 19 年度入学者募集要項）

資料４－２－①－５　編入学者選抜方法

６．選　抜　方　法

編入学の合否判定は、学力試験の成績、高等学校長からの調査書及び面接の結果を総合して行います。

（出典　平成 19 年度編入学者募集要項）

資料４－２－①－６　編入学者選抜学力試験科目

（1）学力試験科目及び範囲

◆　一　般　科　目

（出題は、高等学校第３学年第１学期終了程度とします。）

学　　科	科　　目	範　　囲
共　通	数　　学	数学Ⅰ、Ⅱ
	英　　語	英語Ⅰ、Ⅱ

◆　専　門　科　目

（出題は、高等学校第３学年第１学期終了程度とします。）

ア．機械工学科・物質工学科・環境都市工学科

学　　科	科　　目		範　　囲
機械工学科	機械設計		機械と機構・機械に働く力と運動・機械の仕事と動力・材料の強さ
物質工学科	工業化学		工業化学１
環境都市工学科	選択	土木設計１	材料の強さ、力の釣合い、静定ばり、部材断面の性質、はりの応力と設計、柱、トラス、梁のたわみ ただし、不静定は除きます。
		建築構造設計１	力の釣合い、構造物、静定構造物の応力、部材の性質と応力度、部材の変形と応力、梁の変形 ただし、不静定梁、不静定構造物を除きます。

イ．電気電子工学科・情報工学科

学　　科	科　　目	範　　囲
電気電子工学科	電気基礎	①　直流回路：　オームの法則・キルヒホッフの法則・ブリッジ回路 ②　交流回路：　ＲＬＣ回路（インピーダンス・共振）・電力計算 ③　電気磁気学：電流と磁界・電界、電圧と静電容量・電磁誘導とインダクタンス
情報工学科	電気基礎	①　直流回路：　オームの法則・キルヒホッフの法則・ブリッジ回路 ②　交流回路：　ＲＬＣ回路（記号法による計算を含む）・電力計算
	電子回路	電子回路素子（ダイオード）
	Ｃ言語	ファイル入出力・構造体・共用体を除きます。

（出典　平成 19 年度編入学者募集要項）

資料４－２－①－７　専攻科推薦選抜方法

４．選抜の方法

入学者の選抜は、推薦書及び調査書の記載内容等を考慮し、成績点（80点満点）、面接評点（20点）を合算した総合点（100点満点）により判定する。

（出典　平成 19 年度専攻科学生募集要項）

資料４－２－①－８　専攻科推薦書

推薦選抜用

受験番号	※

推　　薦　　書

平成　　年　　月　　日

函館工業高等専門学校長　　殿

学　校　名

学 校 長 名　　印

下記の者は、学業成績、人物ともに優れており、貴校専攻科　　システム工学専攻への推薦入学にふさわしい者と認め推薦します。

記

志 願 者 氏 名

昭和　　年　　月　　日　生

所属学科

推薦理由	
その他参考事項	

（出典　平成 19 年度専攻科学生募集要項）

資料４－２－①－９　専攻科学力選抜方法

３．選抜の方法

入学者の選抜は、調査書の記載内容等を考慮し、学力点、面接評点を合算した総合点（400点満点）により判定する。

（１）筆記試験科目及び出題範囲

科　目		試験科目及び出題範囲	配　点
英　語		本校本科での第４学年程度までの英語、工学的な英語、リスニングテストを含む。	100点
数　学		基礎、線形代数、微分・積分（微分方程式を含む）。	100点
専門科目	生産システム工学専攻	材料力学、流体力学、熱力学、材料学、電気磁気学、電気回路、電子回路、電子工学、信号処理、論理回路、プログラミング（Ｃ言語）オペレーティングシステムの１２科目から３科目を選択する。	180点
	環境システム工学専攻	物理化学、有機化学、無機化学、分析化学、構造力学、水理学、土質工学、コンクリート構造学の８科目から３科目を選択する。	180点

（２）学力点

筆記試験科目の合計点（380点満点）を学力点とする。

（３）面接評点

面接担当者が、質問に対する回答内容、応答態度を評価して総合したものを面接評点（20点満点）とする

（出典　平成 19 年度専攻科学生募集要項）

資料４－２－①－１０　専攻科社会人特別選抜方法

３．選抜の方法

入学者の選抜は、推薦書及び調査書の記載内容等を十分に考慮し、面接試験により行う。
面接での質問に対する回答内容、応答態度を質問項目別に評価したものを総合し判定する。

（出典　平成 19 年度専攻科学生募集要項）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程における自己アピール書や傾斜配点科目の導入，編入学や専攻科課程における学力試験科目の設定，面接等，それぞれアドミッション・ポリシーに沿った学生の受入方法を採用しており，入学者選抜が適切に実施されている。

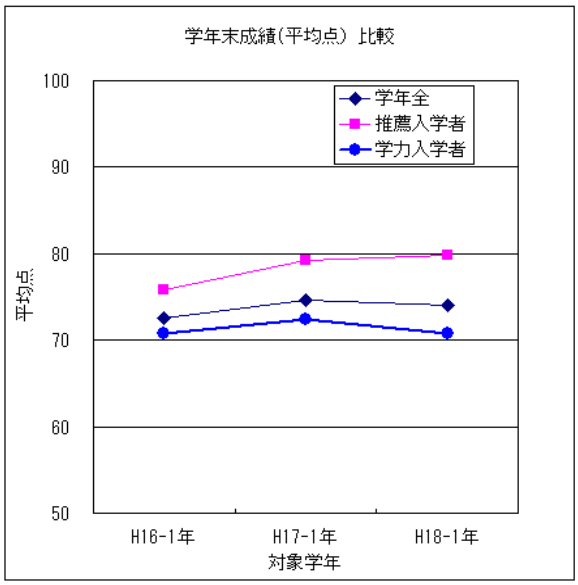
観点４－２－②：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

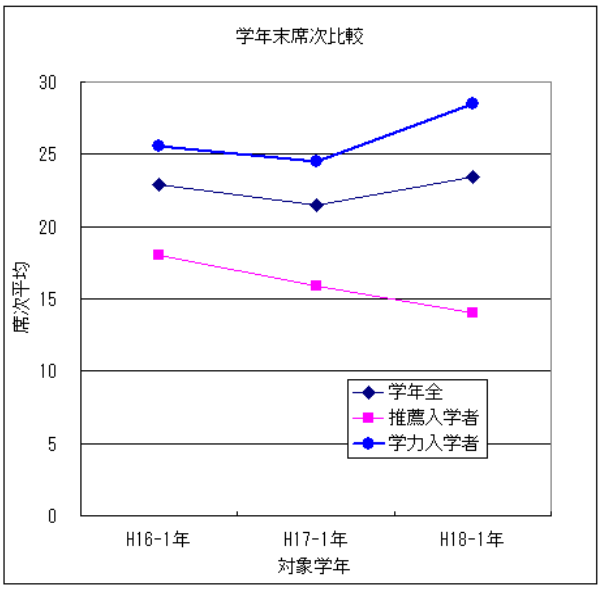
（観点に係る状況）

入試方法検討ワーキンググループ，入学者選抜委員会および専攻科委員会において，各年度の入学者選抜についてアドミッション・ポリシーに沿っているか検討しており，改善に役立てている。

その一つとして，準学士課程の推薦合格者の追跡調査（資料４－２－②－１）を行い，その結果から，平成18年度入学者選抜までは定員の40％以内としていた推薦選抜の人数を，平成19年度入学者選抜では40％程度と拡大した。また，入学者選抜委員会においてアドミッション・ポリシーに沿った入学者受入方法が検討され，平成19年度入学者選抜より推薦選抜に自己アピール書を導入するとともに，調査書の学習成績と面接等の評価の比率を５：１に改めた（資料４－２－②－２）。

資料４－２－②－１　推薦合格者の追跡調査結果





（出典　平成 18 年度　入学者選抜委員会　入試方法ワーキンググループ資料）

資料４－２－②－２　入学者選抜改善の取組

第１１回入学者選抜委員会議事要録

日　時　：　平成１８年度2月２４日（金）１５時３０分～１７時４５分
場　所　：　共用会議室
出席者　：　１６名　長谷川委員長、小原副委員長、佐藤（博）、秋葉、小川、國分、水上、韮沢、中村（和）、福島、山田（一）、田畑、北見、石井専攻長、浜生産システム工学専攻長
中村（均）、渡邊、瀬川
欠席者　：　　１名　只野事務部長

◎　確認事項
第１０回入学者選抜委員会議事要録についての確認がなされ、了承された。

◎　議　　題
１．アドミッションポリシーに対応した入学者選抜について
委員長の要請により、小原副委員長から2月１７日（金）に行われた、「入試方法検討ＷＧ会議」の審議内容についてが次の資料に基づき報告・説明がなされた。
１、推薦による選抜
２、学力検査による選抜
３、選抜判定基準の情報公開
４、今後の検討課題

①　資料「入試方法検討ワーキンググループ会議の報告」
②　資料ー自己アピール書（案）。
③　資料ー函館工業高等専門学校のアドミッションポリシー。
④　資料ー函館工業高等専門学校入学者選抜判定基準。

続いて、学生課長から、資料「推薦志願者の合格状況」、「入学者選抜概況」及び「各学科の入学者選抜概況」により説明がされた。
その後、資料「入試方法検討ワーキンググループ会議の報告」を中心に審議が進められ、委員長から、積極的な情報公開を推進し、本校アドミッションポリシーに対応するよう、現行の入学制度を見直すこと。今後今年度のような志願状況が続くものと予想されることから、推薦枠４０％以内を４０％程度とすること。推薦選抜における面接方法の見直しを図ることなどについて発言がなされた。
その後種々審議、意見交換の結果、次の４点が確認され、了承された。
１）推薦選抜に自己アピール書（仮名）の評価を加える。
２）推薦選抜において個人調査書の学習成績と：面接等（自己アピール書を含む）

の評価の比率を５：１とする。
３）推薦選抜における個人調査書の各教科の評定の傾斜配点及び各学年の比率は変えない。
４）推薦選抜の入学定員を４０％以内から４０％程度とする。

続いて学力検査による選抜についての審議がなされ他結果、従来どおり学力を重視し、４０：９の現行通りとすることが了承された。
（１）入学者募集用への記載
○　推薦による選抜
「４　選抜の方法
入学者の選抜は、個人調査書、推薦書、自己アピール書及び面接の結果を総合的に判定して行います。
個人調査書の学習成績と面接（自己アピール書を含む。）の評価の比率は５：１です。
○　学力検査による選抜
「４　選抜の方法
入学者の選抜は学力検査及び個人調査書を総合的に判断して行います。
学力検査の成績は、数学、理科、及び英語をそれぞれ２倍した得点と国語と社会の得点を合計したものとします（８００点満点）。
学力検査の成績と個人調査書の学習成績の比率は４０：９です。
（２）その他の周知方法
○　ホームページに掲載するとともに報道発表をする。
○　学校説明会、中学校個別訪問等で周知する。

（出典　入学者選抜委員会議事要録　抜粋）

（分析結果とその根拠理由）
入学者選抜についてアドミッション・ポリシーに沿っているかを検討しており，その調査結果をもとに推薦選抜への自己アピール書の導入など，具体的な改善に役立てている。

観点４－３－①：　実入学者数が，入学定員を大幅に超える，又は大幅に下回る状況になっていないか。また，その場合には，これを改善するための取組が行われるなど，入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

（観点に係る状況）

平成17～19年度における準学士課程（資料４－３－①－１），編入学生（資料４－３－①－２），専攻科課程（資料４－３－①－３）の入学者状況を示す。過去３年間において準学士課程の実入学者数が最も多かったのは平成18年度の223名で，募集定員200名の1.12倍となっているが，特に教育上の支障は出ておらず十分受け入れ可能である。

専攻科課程では，募集定員20名に対して平成18年度の入学者数31名が最も多く，実入学者数が募集定員の1.55倍になっているが，教職員数に比べて入学定員が20名と少ないため，特に教育・研究の支障は出ていない。

資料４－３－①－１　準学士課程　入学状況

年度	学科	定員	志願者数	入学者数
17	機械工学科	40(16)	106(25)	43(16)
	電気電子工学科	40(16)	99(27)	42(16)
	情報工学科	40(16)	138(28)	41(16)
	物質工学科	40(16)	130(25)	42(16)
	環境都市工学科	40(16)	95(10)	43(10)
	全体	200(80)	568(115)	211(74)
18	機械工学科	40(16)	103(28)	48(16)
	電気電子工学科	40(16)	60(19)	50(16)
	情報工学科	40(16)	119(25)	41(16)
	物質工学科	40(16)	111(26)	42(16)
	環境都市工学科	40(16)	63(15)	42(15)
	全体	200(80)	456(113)	223(79)
19	機械工学科	40(20)	107(24)	43(20)
	電気電子工学科	40(20)	105(15)	42(15)
	情報工学科	40(20)	101(13)	41(13)
	物質工学科	40(20)	101(20)	40(20)
	環境都市工学科	40(20)	112(18)	42(18)
	全体	200(100)	526(90)	208(86)

（　）は推薦選抜。志願者数は推薦→学力を含む。

（出典　学生課資料）

資料４－３－①－２　編入学者　入学状況

年度	学科	志願者数	入学者数
17	機械工学科	0	0
	電気電子工学科	0	0
	情報工学科	1	1
	物質工学科	0	0
	環境都市工学科	0	0
	全体	1	1
18	機械工学科	2	1
	電気電子工学科	1	1
	情報工学科	0	0
	物質工学科	1	1
	環境都市工学科	3	0
	全体	7	3
19	機械工学科	1	1
	電気電子工学科	2	0
	情報工学科	0	0
	物質工学科	1	1
	環境都市工学科	1	0
	全体	5	2

（出典　学生課資料）

資料４－３－①－３　専攻科課程　入学状況

年度	専攻	定員	志願者数	入学者数
17	生産システム専攻	12	15(4)	11(4)
	環境システム専攻	8	15(3)	11(3)
	全体	20	30(7)	22(7)
18	生産システム専攻	12	28(12)	19(12)
	環境システム専攻	8	17(5)	12(5)
	全体	20	45(17)	31(17)
19	生産システム専攻	12	32(12)	19(12)
	環境システム専攻	8	14(7)	10(7)
	全体	20	46(19)	29(19)

（　）は推薦選抜。志願者数は推薦→学力を含む。

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程においては，これまで学科定員を２割ほど超える学科があったが，非常に珍しいケースであることと，教育環境に関しては十分許容できる範囲であるため特に支障は出ていない。専攻科課程においては，入学定員に比べて入学者が多い状況であるが，本校の教職員数に比べて入学定員がもともと少ないため，教育・研究に支障はないことから全体として相応と判断される。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

準学士課程，編入学および専攻科課程の全ての入学者選抜においてアドミッション・ポリシーが定められており，学校案内や入学者募集要項，ホームページに記載するとともに，学校説明会や体験学習会などでプレゼンテーションによる説明を行うなど，本校アドミッション・ポリシーの内容を将来の学生を含め広く社会に発信している。また，入学者選抜についてアドミッション・ポリシーに沿っているかを検討しており，その調査結果をもとに推薦選抜への自己アピール書の導入など，具体的な改善に役立てている。

（改善を要する点）

全ての入学者選抜においてアドミッション・ポリシーが定められており，その内容を広く社会に発信しているが，周知度調査によると学内の教職員に対して準学士課程に関しては十分周知されているものの，編入学，専攻科課程に関してはアドミッション・ポリシーの周知が十分とは言えない。

（３）基準４の自己評価の概要

準学士課程，編入学，専攻科課程の各段階においてアドミッション・ポリシーが全て明文化されており，各募集要項，学校案内の冊子とホームページにより公開し，中学校訪問，学校説明会等において冊子を配布するとともに，各説明会ではプレゼンテーションも行い周知を図っている。また，準学士課程では，中学生に理解しやすいようにメッセージ形式の表現も用いており，さらに，準学士課程のアドミッション・ポリシーをもとに各学科においてもアドミッション・ポリシーを定め，中学生に理解しやすい工夫をしており，教職員に対しても十分周知されている。専攻科課程についても，各専攻においてアドミッション・ポリシーを定めている。しかし，教職員への周知に関しては，教員会議で説明するとともに，明記されている学生募集要項，学校案内を配布して周知を図っているが，周知度が約64%と十分とは言えない。

準学士課程における自己アピール書や傾斜配点科目の導入，編入学や専攻科課程における学力試験科目の設定，面接等，それぞれアドミッション・ポリシーに沿った学生の受入方法を採用しており，入学者選抜が適切に実施されている。

入学者選抜についてアドミッション・ポリシーに沿っているかを検討しており，調査結果を具体的な形で示し，その調査結果をもとに推薦選抜への自己アピール書の導入など，具体的な改善に役立てている。

準学士課程においては，最近では学科定員を２割ほど超える学科があったが，非常に珍しいケースであることと，教育環境に関しては許容範囲ということで，支障は出ていない。専攻科課程においては，入学定員に比べて入学者が多い状況であるが，本校の教職員数に比べて入学定員がもともと少ないため，教育・研究に支障はないことから全体として相応と判断される。